

令和5年度 第1回鎌倉高等学校 学校運営協議会 議事録

日時 令和5年7月12日(水) 14:30~16:30

場所 鎌倉高等学校 国際理解ホール

出席者(敬称略)

(委員) 田邊克彦、末次健治、瀧澤博、永野征男、齋藤貴、牛見誠人、菅野喜八、  
川中典花、渡辺晃、岡田雅彦

(事務局) 岩崎幸代、椿みどり、長谷川千栄子、伊藤剛、石川比呂子、永山悦子、千葉大介、  
佐藤靖彦、土谷優子、稲葉啓太、喜納悠大

議事録

【校長あいさつ】

・岡田校長：

- 鎌倉高校は地元の方々に支えられている学校である。
- コミュニティの方々に学校を支えていただき、学校はコミュニティの方々にコミットしていく。そのような関係の構築を目指していきたい。
- 鎌倉高校は創立100周年を迎える高校である。また、学力向上進学重点校エントリー校であり、理数教育推進校に指定されている。本日はそのような視点からも様々なご意見を頂戴したい。

【委員の委嘱】

※各委員の自己紹介により委嘱。また、欠席した青木委員については校長から紹介。

【会長・副会長選出】

「神奈川県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」の第7条に基づき、互選により会長を、会長の指名により副会長を、それぞれ次のおり選出した。

会長 田邊克彦 副会長 青木弘

「神奈川県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」に基づき、ここからは田邊会長が議長を務め、協議などを行った。

【(1)学校運営協議会の組織について】

※学校評価部会とキャリア部会を設置

学校評価部会については、規則に基づき委員5名から8名程度で、会長が指名するとあるが、岡田校長から委員11名全員に、それぞれのお立場からの参加してもらいたい旨を

述べ、承認された。

引き続き、会長が学校設置部会の設置について意見を募る。

岡田校長から、本校が神奈川県教育委員会から受けているふたつの指定（学力向上進学重点校エントリー校、理数教育推進校）を踏まえるとともに、グランドデザインにおいて、サイエンティフィックグローバルリーダーの育成を目指すことを掲げていることから「キャリア部会」の設置を提案される。

意見交換ののち、会長により「キャリア部会」の委員として、田邊会長、青木委員、牛見委員、川中委員、岡田校長、岩崎副校長、長谷川教頭、伊藤総括教諭、石川総括教諭、千葉総括教諭、佐藤総括教諭の12名を指名。

## 【(2) 令和5年度神奈川県立鎌倉高等学校の学校運営について】

- ・岡田校長から、学校教育計画「鎌倉高校の教育活動」について次のとおり説明。

スクールミッションの再定義とともに、カリキュラムデザインを行い、生徒の進路実現を行うというミッションが与えられ、スクールポリシー、グラデュエーションポリシー、アドミッションポリシーと合わせて3つの柱を定めた。海外でも活躍する生徒を育てたいという思いから、グランドデザインについても定めた。

(一同特に意見なし)

- ・伊藤総括教諭から、イ「教育課程の編成に関すること」について、次のとおりスクールポリシーをもとに説明。

76期生(2年生)から新課程が導入され、現在は過渡期にあたる。新観点による評価となった点など、業務上のミスに気を付けながら評価を行っていく所存である。

- ・岡田校長から、ウ「学校組織の編成に関すること」について、次のとおり学校組織の編成について学校要覧の19ページをもとに説明。

「教科」や「学年」という軸があるのと同様に、学校の中の組織を運営していくための「グループ」を組織。「教務」「学習企画」「生徒会」「生徒指導」「管理」「進路」6つのグループを設けている。具体的内容は記載の通り。また、企画会議と職員会議があり、それぞれのグループリーダーが集まり、学校の方針を決め、職員会議で全体周知や決定を行っている。

- ・椿事務長から、エ「学校予算の執行に関すること」及びオ「学校施設及び設備等の管理及び整備に関すること」について次のとおり説明。

プールの水の浄化装置やアスファルトの舗装などの施設改修、電気代が多くかかっていることや、耐震工事について説明。

- ・田邊会長から、近年の電気代の高騰をふまえ、学校の電気代について質問。

- ・椿事務長から次のとおり回答。

電気代については、まだ現在は大きな問題はない。どちらかといえば老朽化の方が学校としては問題であるとの印象を持っている。老朽化について学校から予算を要望して

いるが、教育委員会がいつ認めてくれるかわからない。

- ・田邊会長から、外部からの資金を学校に呼び込むことの検討状況について質問。
- ・椿事務長から次のとおり回答。

「まなびや基金」がある。以前、まなびや基金を利用して、生徒用のロッカーを購入できたということがある。寄付があれば、更新できるものもある。

### 【(3) 神奈川県立鎌倉高等学校の教育活動等について】

- ・土谷教諭が動画と写真にて説明。

鎌倉高等学校の教育活動について各グループから次のとおり説明。

#### ・教務グループ

- PDCAに基づきながら、各教科に共有し、学校全体で改善するという取り組みをしている。
- 改善計画として、6月実施のアンケートの中の項目6の「授業をもとに～」の項目に「当てはまる」と答えた生徒が50%以上いるかを踏まえながら教科会を行い、振り返る。その後、12月に再度アンケートを行い、1月に振り返りを行う。

#### ・学習企画グループ

- 鎌倉高校の理数教育推進校、学力向上進学重点校エントリー校の取り組みとして、今年度の10月20日に公開研究授業を行う。テーマは批判的・論理的な思考力を育む授業。
- 来年度、SSHの申請を行うというミッションのもと、現在の課題に重点的に取り組んでいる。具体的には、理数探究活動を通して、科学的理数人材の育成などを行っている。

#### ・生活指導グループ

- 生徒の進路実現や健康の増進のために、生徒指導・支援をしていくことをグループとして常日頃考えている。従来の業務に加えて、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが週1回来校となった。これにより、教育相談業務の推進が図られる。
- 今年度は地域貢献活動を行う予定である。具体的には七里ガ浜等の海岸清掃について検討したい。
- 今年度は奨学金の申し込み減少していることについては、奨学金の返済が大変であるということが社会に浸透したことが背景にあるようだ。

#### ・キャリア支援グループ

- 外部の試験を利用し、1年生から生徒の学力の定点観測を行い、進路指導をしている。
- 職員全員が同じように進路指導をできるように、職員向けの進路指導資料を作成配布している。

- 第一志望宣言というものを生徒に課しているが、生徒の第一志望合格を実現できるように指導をしている。
- 今年度も学習キャリアワークブックを作成した。内容としては、先輩の受験体験記というものがある。後輩にとって、知っている先輩の話の参考にできる点にメリットがあると考えている。
- ・**生徒会グループ**
  - 生徒会グループでは、学校行事全般を扱っている。令和4年度の反省を生かして、今年度は感染症対策をしながら、従来の規模の学校行事を開催していきたい。
  - 今年度の文化祭では8,000人以上の来校があった。中学生は1,400人ほど来校したということが良かったと考えている。
  - 藤沢支援学校鎌倉分教室とも協力関係を深めながら学校行事を進めていきたいと考えている。
- ・**管理グループ**
  - 管理グループでは地域との共同、学校管理、防災教育を担っている。PTAとの連携、窓口も一つの業務である。
  - 今年度の防災教育についてはシェイクアウトからの避難訓練と帰宅班の確認を行った。2回目は8月24日に行う予定である。2回目の防災教育ではDIG研修を行う。土砂災害や津波が起きた時に、どこが危険なのかを知る教育を行う。さらに一歩踏み込んだ防災教育を行いたい。
- ・**学習企画グループ**
  - 学習企画グループでは、総合的な探究の時間の取組について、K-ARPという名前で行っている。柱は2学年の探究活動である。課題について仮説を立て、検証していくという活動である。今年度も課題のテーマを設定している最中である。発表の際にはぜひ委員の皆様にもご参加いただきたい。
  - 1年生では「理数探究基礎」という授業で、批判的思考やデータ分析、活用、論の主張の方法についてなど、探究活動に必要なスキルを身に付けている。
  - 3年生では2年生のときに自分が行った研究を論文にまとめるという活動を行っている。

#### 【(4) その他】

※ここまでの説明をふまえ、次のとおり意見交換を行った。

- ・**斉藤委員：** 各項目において4年間の目標という欄があるが、これは令和2年に4年間分の目標を決めたのか？また、これらは4年後に確実に達成したのか、または各年度にそれぞれ達成する必要があるのか。

- ・岡田校長：平成 28 年度から 4 年ごとに目標を立てている。基本的には 4 年間かけてこの目標を達成してく。学校要覧 8 ページに主な目標と方策の記載がある。
- ・斉藤委員：今年度が 4 年間の完成年度となるが、4 年間の達成状況の評価は別に行うのか。
- ・岡田校長：4 年間の達成状況についての評価は別に作成する予定である。
- ・斉藤委員：ランドデザインについて、6 つの柱は 1～2 年生で実施するというような記載があるが、実際には 3 年間の教育にあたるのではないか。つまり 3 年間におけるキャリアデザインでよいのではないか。また育成したい能力について 5 種類提示されているが、ここで使用している語句は指導要領などに使われている言葉なのか？
- ・岡田校長：1～3 年でキャリアデザインについて取り組んでいる。ランドデザインの見せ方として、ご指摘いただいた 6 つの柱については改善していきたい。使用している語句については、たしかに自己教育能力については他ではあまり出てこないものであるが、それ以外の語句に関しては学習指導要領や神奈川県教育目標などに出てくる言葉である。
- ・田邊会長：ランドデザインについては修正する余地があるということでしょうか？
- ・岡田校長：4 年間の目標をベースにしていることもあるので、令和 6 年度からの目標策定の際に修正できればと考える。
- ・永野委員：進路指導計画に関して、インターンシップの中身については年々変化があるのか、また 2 年生の参加する割合はどのくらいか。
- ・キャリア支援グループ総括教諭：  
インターンシップは神奈川県がコンソーシアムの事務局を設けているので、それに参加している。コロナ前後では多少変化がある。病院希望の生徒が多いが、受け入れ側がセンシティブなところもある。割合については 5 % 程度である。
- ・瀧澤委員：学校評価報告書において、地域等との協働あるが、どこを指して地域といているのか。またコミュニティ・スクールを軸としてということだが、どのように協働していくのか。
- ・岡田校長：地域については地元と考えている。ただし、どの部分を地域とするか、明確な線引きはできないと考えている。学校評価報告書についてはすべてを網羅しているわけではなく、取り組みのうちの主だったものを載せている。例えば地域清掃などが地域との取り組みの一つとして考えられる。
- ・田邊会長：地域については神奈川県か、鎌倉市か、などすみ分けが難しい問題で

ある。

- **末次委員：** シェイクアウトについては毎年実施していただきたい。教室が毎年変わると思うので、考えるだけでなく、実際に動くことが重要。DIGについては学校の周囲が津波の浸水や洪水のレッドゾーンなど、周囲の危険を知ることにつながるので、継続して実施していただきたい。
- **牛見委員：** グランドデザインの最上位の目標の「サイエンティフィック」については、深い科学的知識を身に付けた人材というイメージである。K-ARPのテーマについては、どんな視点で研究をしているのか知りたいので、テーマだけでも載せていただけると嬉しい。市のイベントでビーチクリーンという海岸清掃がある。連携という意味で、チャレンジしてもよいのではないか。
- **学習企画グループ総括教諭：**

テーマについては高校生が検証可能なものなので、身近なものが多い印象である。ダンゴムシがどのような条件でまるまるのかというようなテーマや、四葉のクローバは人工的にできるのか、イケメンの定義は何かなど、薬品を調合して一番発光するのは何か、など。身近なものが多い印象であるが、3月の発表を見に来ていただきたい。
- **生活指導グループ総括教諭：**

海岸清掃に関して、コロナ前は腰越や七里ガ浜等で、クラス全員参加の清掃をしていた。コロナ下においては、ボランティア委員と生徒会で行っていた。
- **田邊会長：** 連携についてはいかがか。
- **生活指導グループ総括教諭：**

全員参加というと、人数的な問題もあるので、生徒会だけ等、何かの形でそちらとも連携できればと思っている。
- **菅野委員：** いじめへの対策に関して、どのような活動を行っており、これからしていくのか。また、いじめが生じてしまった場合、どのような責任があるのか。
- **生活支援グループ総括教諭：**

いじめに関しては活動報告にもあるように、学校生活アンケートを年に2回やっている。いじめだけでなく、学校が楽しくないなど書いた生徒にできるだけ担任が話を聞くような機会を設けている。いじめとは思っていなくとも、SNSの使い方によっては他者に影響を与えることがあるということを啓発する指導も行っている。例えば学校の年間行事予定をSNSに挙げるということは、ある人にとっては悪意のある行為につながるというような指導は、事例としてあった。

- ・川中委員： 地域等との協働、分教室との協働について、文化祭において PTA のブースをだして、どらやき、オリジナルのファイルなどを販売している。今年度はどらやきを買っていただいた人に缶バッジをお配りした。缶バッジのデザインは鎌倉高校の美術部と PTA 広報部の方で、制作は分教室の生徒が授業の一環で行っている。今年は 700 個をお願いしたところ、快く引き受けてくださった。分教室に感想をもらったところ、鎌倉高校と関わるのがすごく楽しいと言っていた。年一回の缶バッジ制作を楽しみにしていた。分教室の室長とも話したが、子供が鎌倉高校と関わることを本当に楽しみにしていると言っていたので、文化祭以外にも分教室と連携できるチャンスがあればと思う。
  - ・田邊会長： 生成 AI についてどのように考えているか。
  - ・岡田校長： 生成 AI については県の方から基本的な指針がだされたが、鎌倉高校の中でどのように使用していくかについてはまだ話し合っていない。
  - ・学習企画グループ総括教諭：

3 年生の授業において、論述問題を課しているが、生成 AI は、なんとなくの文章を書いてくるが、そのような文章を書いたらダメだよと言う良くない例として出している。
  - ・田邊会長： ではまだ生成 AI が直接影響を与えるという段階ではないのようだが今後学校教育に入ってくるという段階になったらぜひ検討をしていただきたい。その他、前年度の学校運営協議会の中で PDCA サイクルを意識した運営をお願いしたが、今後もその観点に沿った運営をお願いできればと思う。ではこの資料に基づいて、すべての項目について承認をいただけるという認識でよろしいか。
- (一同承認)
- ・田邊会長： では、承認とする。

【次回の連絡】

- ・岡田校長： 本日いただいたご意見を踏まえて運営をおこなっていくので、今後ともご支援をいただきたい。